

# maturity

マチュリテイ

2023-JAN

116

いきいきシニアライフ

公益社団法人 日本産業退職者協会  
(略称 JARP)

# maturity

“人格、才能の豊かで円熟”の意味

“第二の人生のために”

無為の人生は自らその老いを早め、  
孤独の余生は座して終わりを待つに等しい。  
進んで生きがいを求め、友と苦楽を共にし、  
天寿の日々を悔いなく生きたい。

会員の多くは戦後の経済活動優先で豊かな生活を享受してきましたが、反面地球に対し様々な負の遺産を残しました。私達の地球は未来の子供達からの借りものです。汚れたまま、資源が枯渇したまま、次世代に引き継がせてはいけません。私達は2015年に国連で採決されたSDGsの目標の中の海の豊かさ、陸の豊かさを守る社会貢献事業を行うこととしました。その活動内容は本誌4ページに紹介させていただいております。

チャリティコンサート、ボランティア活動、「いきいき基金」災害義援金等の社会貢献活動にも引き続き取り組んで参ります。どうかこれらの事業活動費へのご寄付をお願い申し上げます。

## 振込先

郵便為替 口座番号 00130-3-139353  
加入者 公益社団法人 日本産業退職者協会

おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

# 目次 **maturity** 2023年／第116号

年 頭 所 感	新年のご挨拶	吉川敏孝	2
社会貢献活動	社会に求められる社会貢献 SDGs 委員会活動報告と今後の予定	西村康治	4
ふれあい トークサロン	〈第44回〉 江戸城天守再建—過去・現在・未来—	太田資暁	6
個人会員親睦会	はつらつふれあいの集い	伊藤春江	10
委員会紹介	仲間を増やしましょう!	塩山哲郎	13
	業務委員会一覧	事務局	13
マチュリティ 談話室	農園雑感	石川義明	14
	北海道の冬模様	岩渕芳夫	14
	無二の友人との出会い	遠間ひで子	15
	上野公園にて	後藤憲子	16
	新聞記者時代の思い出	小野浩二	16
寄 付 者 一 覧			17
ひ と こ と	「今年こそ……」		18
	飯田吉辰／吹田文彦／小林繁治／関谷一郎／分部政行 深井直行／尾利出 収／大友 彰／山本英子 佐々木由紀子／藤岡寿美恵／泉本剛男		
同 好 会 だ よ り			20
	詩吟会／鎌倉探訪		
地 域 会 ・			21
広島支部だより	神奈川会／埼玉会／西東京会／京葉会／広島支部		
法人・団体会員名簿／役員名簿／編集後記			
表紙写真	『白馬ジャンプ競技場ラージヒル』	飯田吉辰 (神奈川会)	
裏表紙	出射義幸 (西東京会)／松林純二 (広島支部) 岩崎迪子 (広島支部)／田中英司 (埼玉会)		

## 年頭所感

# 新年のご挨拶



公益社団法人 日本産業退職者協会

理事長

吉川敏孝

2023年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2022年も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった年でもありました。ウイルスが次々と変異を繰り返す中で、新型コロナウイルスの累計感染者数は2022年11月30日現在、世界で6億4271万人（日本2482万人）、死者は世界で663万人（日本5万人）に達しました。COVID-19が当協会にどのような変化をもたらしたでしょうか。4回にわたる緊急事態宣言が発令された時期にはほとんどの活動を休止せざるを得なくなりました。コロナ収束まで危機的な状況は続いています。

一方で、コロナ禍によってZoomなどによるオンラインを使って何とか委員会などを実施することが出来、情報手段として大変有効なものであるこ

とが証明されました。今後、各委員会の打ち合わせに利用していく事ができると思います。しかし、これまで当たり前と考えられていた対面での活動の大切さも痛感させられました。会員が一堂に集まる中からお互いの信頼関係が生まれ、人と人が繋がることの大切さを感じることが出来たのではないのでしょうか。

昨年の主な活動を列挙しますと以下の通りです。

- ・チャリティーコンサート
- ・6月紀尾井フォーラムで、当協会主催・ウクライナ大使館後援でウクライナ緊急支援チャリティーコンサートを開催。収益金と会員からの寄付金20万円をウクライナ大使に手渡す。
- ・SDGs協働事業

5、9、10月西東京市東小学校施設

開放運営協議会主催、放課後竹とんぼ教室を開催。8月2日から東京ビッグサイトで「下水道展22東京」が開催され、当協会が行っている地球環境保護活動を展示。公益社団法人日本下水道協会から評価を受ける。

・「はつらつふれあいの集い」

11月9日NLPジャパンラーニングセンター神田カンファレンスルームで開催。参加人数はコロナ禍を考慮して従来の半分程度に縮小。イベントは同好会の紹介、ハープ演奏、協会の歌や護身術の実技紹介や抽選会など、参加者に楽しんでもらえた。

・認知症予防活動「きたざわサロン」  
きたざわサロンがスタートして12年経過。当協会の代表的社会貢献活動。ゲストの高齢化とコロナ禍の中、6月から12月にかけて8月を除き5回開催。

さて、今年度の経常収益も見通して厳しい状況が続いています。経常費用のさらなる節減はもとより各委員会活動による経常収益向上を期待します。

## 重点課題

### 第1 「フレイル」防止に関する事業の拡大

2025年、日本では「介護の需要爆発」が起きます。1947～49年生まれの子孫の世代が全員、75歳以上の後期高齢者になります。その数およそ600万人。その前の3年間（44～46年生まれ）の1.5倍のスピードで後期高齢者になる人が増え続け、高齢者の孤立や孤独を防ぐためにも、社会参加活動など人と人が関わり合う機会を増やす必要があります。社会参加を通じて、心の豊かさや生きがいを得られ、その上自身の健康にもつながります。今後社会参加活動をする高齢者も増えてくると思われます。当協会はそれらの人々と連帯して「フレイル」防止活動を積極的に推進していく事が喫緊の課題です。

#### ① 認知症予防活動「きたざわサロン」

の継続支援と各地域会で同様な活動を新たに展開します。手始めに本部のある中央区の地域包括支援センターの指導を受け、実行に移す。

② 従来から行われている社会貢献活動、会員が参加するイベント、野外サークル活動、文化サークル活動、地域会活動は会員自身を含めて「フレイル」防止にも役立っています。「フレイル」防止に焦点を当てて、それぞれの活動の見直しを行う「フレイル」に特化したサークル活動や講演会、講習会を企画する。

③ 「フレイル」防止活動を積極的に推進しているNPO法人や公益法人と接触をはかり協働事業を計画する。

### 第2 法人会員・個人会員の拡大強化

① 我が国の産業の変化に対応した業種及び規模を見直し、法人会員の裾野を広げる。

② 昨年に引き続きSDGs協働事業を通して新規法人の発掘を進める。

③ 昨年の会員紹介キャンペーンの効果を踏まえ、社友会、協会のイベント

ト、サークル活動、地域会活動との連携による会員獲得を目指し、減少傾向を食い止める。

### 第3 持続可能な協会運営

① 昨年に引き続き各種規定・内規（理事の年齢制限等）の見直しを進める。

② 各種イベントの開催費用は原則参加費で賄う。

③ 委員会開催はオンラインを活用する。

### 第4 SDGs協働事業の拡大

① 昨年手掛けたプロジェクトを継続する。

② クラウドファンディングの活用を検討実施する。

公益社団法人 日本産業退職者協会の会員は一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送りたいと思っける方々です。持続可能な協会運営をするため何が必要か、皆さんと一緒に一歩を踏み出しましょう。

2023年元旦

# 社会に求められる社会貢献 SDGs委員会活動報告と今後の予定

SDGs委員会 委員長 西村康治

## 「下水道展'22東京」に出展

新たな取り組みとして、8月2日から5日まで東京ビッグサイトで開催された「下水道展'22東京」に出展しました。これは公益社団法人日本下水道協会様のご厚意でブースを無料で提供いただくことになり、急遽出展したものです。急な決定にもかかわらず、環境フロンティア21加盟各社のご協力により展示物の用意やブースの開設ができました。会期中には2名の現職国会議員やJFE社社長はじめ多数の方々のご来場され、展示物に興味を示されました。

参加した趣旨は、当協会が行っている地球環境保護活動を展示して、皆様に協会活動にご



下水道展'22東京



ブース風景



来場者への理事長説明



好評の「紙芝居」

理解とご賛同いただき、会員になってもらうことでした。

展示物は、末松会員の竹とんぼや手作りおもちゃ、JFE社員の手作りの紙芝居「水の一生」や塗素で動くおもちゃ等です。下水道協会様の要請がありステージで紙芝居とミニゼミを披露することができたのは望外の喜びでした。

## 西東京市東小学校の地域生涯学習

9月18日(日)午後1時から3時まで、西東京市東小学校の施設開放運営協議会主催の地域生涯学習で4連ゴム鉄砲工作教室を開きました。

2年生から6年生まで30名の予定を大幅に上回り、当日は台風の影響で強い雨にもかかわらず40名が参加してくれました。

講師役には当委員会の部長であり竹とんぼ同好会の末松さんと、会員の分部さんにお願ひしました。工作の指導やおもちの歴史、材料の廃品集めの苦労や鉄砲の構造などの話に交え、手作りと環境保護の大切さを面白く話しました。子供たちは楽しみながら熱心に聞いていました。

完成した後は体育館での当てゲームをして得点を競いました。保護者のお母さん方が立派な的をたくさん作っておられたのには驚きました。優勝した子供は30連発のゴム鉄砲を発射することができ大喜びでした。

10月19日（水）には、午後1時20分から3時20分まで前回同様に西東京市東小学校の放課後子供教室で竹とんぼ教室を開きました。講師役には前回のお二人に加え前国際竹とんぼ協会会長の石井さんにも願ひしました。

昨年と同様に竹とんぼを作って飛ばすという内容で、当初は30名の予定でしたが希望者が多く、2年生から4年生までリピーターも含め40名が参加しました。教室で竹とんぼに色塗りをし、胴体を取り付け、その後運動場で各自が作った竹とんぼを飛ばして遊びました。末松さん、石井さんが飛ばす高く上がる竹とんぼを見た子供たちから驚きの声が上が

り、みんなで追いかけてました。

サウスポーで竹とんぼを飛ばすことができず泣きつ面だった子供も上手に飛ばせるようになり、頑張ることの大切さを教えてもらいました。



10月19日 竹とんぼ教室

### 玉川高島屋での「動くおもちゃシリーズ」

8月に開催予定の玉川高島屋での「夏の子ども教室」がコロナ禍で流れてしまいました。

今後は1年間を通して「動くおもちゃシリーズ」と銘打って5歳以上小学生までの各回親子7組を対象に次のとおり『たまがわしOOP』で開催することになりました。皆様の積極的なご参加をお願いします。

・初回…1月28日（土）10：30～12：00

・糸電話、くるくる時計

・春（4月）夏（7月）秋（11月）

### 〈今後の方向〉

今後の大きな課題として仮称「高齢者塾」を事業開発委員会で検討しています。これはSDGs目標17項目の中の「8・働きがいも経済成長も」「9・産業と技術革新の基盤をつくろう」「11・住み続けられるまちづくりを」などにまたがる取り組みです。

当協会では以前から、地域会ごとに地元の名所旧跡を訪ねたり、座談会を開いたり、また2016年からは世田谷区地域包括センターの要請を受け、社会福祉協議会のご協力の下原則毎月1回認知症予防活動として「きたざわサロン」を開催するなどのSDGs活動を行ってまいりましたが、活動をさらに広げていくものです。

資源の垂れ流しは悪として理解されていますが、雇用されている人たちに對しても認識されているのでしょうか。現役時代は会社の一員として身を粉にして働いて、定年を迎えてみれば今浦島のように感じておられる方も多いかと思ひます。心身の健康、夫婦の問題、金銭管理、介護問題など課題は多岐にわたりますが、その中で社会への貢献やいかに自分の人生を生きるかを考えていきたいのです。皆様のご支援をお願いします。

# ふれあいトークサロン

第44回 令和4年11月28日(月) (参加者35名)

■北とぴあ 第2研修室(7階)にて開催

## 〈第44回〉江戸城天守再建

―過去・現在・未来―

太田資暁

現在の私の主な活動は、太田道灌公をNHK大河ドラマに取り上げてもらう運動と、江戸城天守の再建を目指す運動です。いずれも簡単なことではないので、齢八十歳の夢と考えておりますが、この運動のおかげで貴重な知人や友人をたくさん得ることができました。歴史散策をしながら楽しく活動をしておりません。

### 太田道灌が江戸城築城

さて江戸城ですが、1457年に太田道灌が築城しました。どのような事情でここに城を造ったのか、説明が必要です。この時代は、極く簡単に説明しますと、室町時代の中頃です。関東では政権が、室町幕府(京都)配下の関東管領上杉氏と古河公方(茨城県)

の二つに分かれ、利根川を挟んで壮烈な領土争いをしておりました。両方とも足利家の流れですが、足利尊氏が室町に幕府を開いて百年もすると京都と鎌倉が同族の争いを始め、その結果関東公方であった足利成氏が鎌倉を追い出されて古河に政権を開き、鎌倉は関東管領である上杉顕定が治めることになりました。そこでその配下の相模の守護、扇谷上杉定正の家宰(家老)である太田道灌が京都の命により隅田川を挟んだ古河方の千葉氏に対抗する城を造ることになりました。

道灌は候補地として湯島、赤羽、江戸、品川、馬込、夢見ヶ崎(川崎市)を見て回りました。その中から種々検討のうえ江戸に決めました。江戸の地は嘗ては江戸氏が治めていたのですが、道灌の頃には勢力は衰えていたようです。道灌が築城に着手した年齢は二十五歳位だったので、河越城や岩槻城を築いた父太田道真の援助を仰いだようです。したがって最近の川越では「小江戸川越」ではなく「江戸の母川越」と言っている人がおります。この江戸城は当時としては破格的に大きな平山城で、今の皇居東御苑です。道灌の頃の江戸は大変な賑わいであったと記録に残っており、全国の物資の集積地だったようです。

また、道灌は戦の名人で、関東で三十数度戦って一度も負けたことがなく、和歌の名人だったことから、文武両道の鑑として関東で名声はすこぶる高くなりました。面白くないのが関東管領の上杉顕定であり扇谷上杉定正です。そこで顕定が定正に「道灌がお前の首を狙っているぞ」と讒言します。思慮の浅い定正は伊勢原の館に道灌を呼んで謀殺してしまいます。道灌は「当方(上杉家)滅亡」と言って死にますが、その後一年もたたないうちに両上杉は「長享の乱」を勃発させ、その隙について北条早雲が関東を取ってしまうのです。



## 徳川時代の江戸城

1590年豊臣秀吉が小田原北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げます。そこで秀吉は考えました。自分の後を襲うやつは誰だろうかと、それは駿府にいる徳川家康だと。まさに目の下のたんこぶなので、箱根の山の向こうへ行ってしまうと、禄高を増はしますが江戸への国替え命令を出します。当時の江戸は道灌から100年経っており、しかも小田原城の支城であったため荒れ果てていたので、家康以下家臣達是不承不承江戸に入ってきた。当時は家康も文句を言えないほど秀吉の権力は絶大だったのでしよう。

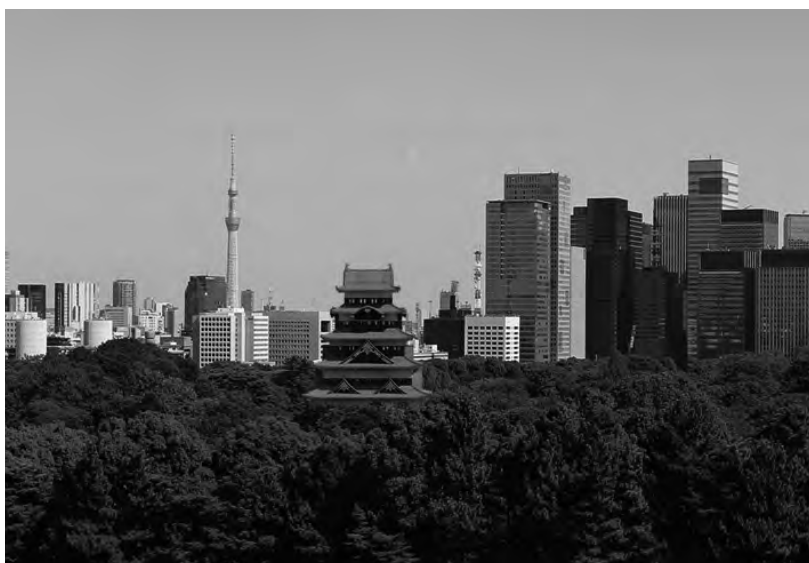


### ■ 太田資暁 (おた すけあき)

1943年東京生まれ、太田道灌18代目子孫。1965年早稲田大学商学部卒業。東京海上専務を経て、東京海上日動あんしん生命社長、2006年退任。現在「NPO法人江戸城天守を再建する会」会長、「NPO法人太田道灌顕彰会」理事長を務め、歴史を継承する活動に取り組んでいます。日退協会会員。

その後1598年に秀吉が亡くなり、家康は関が原でも勝って天下統一を成し遂げ、江戸の町を大改造するために全国に天下普請の大号令を発し、各大名に財力と人夫を出させます。そして権力の象徴である天守を造りますが、これは秀吉の黒い天守よりも大きく、白い天守です（因みに天守閣という言葉は明治以降の言葉で、江戸時代までは単に天守でした）。その後2代将軍秀忠は場所を移し建て直し、3代将軍家光は地震で傾いたか何らかの事情で更に建て直しますが、これが寛永度の天守です。残念ながら1657年明暦の大火で燃えてしまいます。そこで幕府はすぐに再建に取り掛かり、石垣にも火が入っていることから、加賀の前田家に命じて天守台の石垣を組み直しさせます。そしてさあ上物の建物を建てようとしたときに4代将軍家綱のご意見番である保科正之が「待った」をかけます。彼は江戸の町の3分の2が焼け、人口の3分の1がなくなった状況から民生の安定と江戸の町の再建を優先し、天守の再建は「ご延引然るべし」と言って延期させます。彼は家光の異母弟で初代会津藩主として日本で最初に年金制度を作ったり民生の安定を図った大変な名君です。その後

幕府も天守再建について手をこまねいていたわけではなく、1712年老中の新井白石は再建計画書を提出していましたが、財政難で再建までには至りませんでした。その後の幕府も常に財政難で天守を建てる余力がなく、ついに明治になってしまい、さらに幾度の戦争を挟んで現代まで来てしまいました。しかし、日本もやっと最近になって落ち着いて、このような文化や歴史を見直す余裕が生まれてきたと言えるでしょう。



遠方から見た天守 (合成)

## 天守再建運動

そこで我々がNPO法人「江戸城天守を再建する会」を立ちあげて、活動を開始しましたが、その始まりは、世界の主要都市には必ず歴史と文化を代表するモニュメントがあるのですが、東京には残念ながらないということです。外国人が東京へきて主に行くところは浅草かスカイツリーと言われております。そこで東京の歴史を振り返ってみたときに、江戸時代には大きな天守が聳えていたことに思い至ったのです。明暦の大火後に今日まで



天守復元写真

放っておかれた天守台に寛永度の天守を再建出来ましたら、東京はどんなに素晴らしい首都になるだろうかと考えて運動を始めました。

我々のやっている活動が的を射ているのかどうか、日本都市計画学会の大御所である伊藤滋先生にご意見を聞いてみたところ、先生は大賛成で、世界の主要都市が力をつけてきている現代において、東京はこのままでは地盤沈下するであろうと仰っています。そのための計画として、日本橋の上を走る高速道路を地下に入れて東京駅、日本橋、江戸城を結ぶ三角形を造り、それを東京の核にすれば東京は甦るであろうと仰いました。我々はその言葉に意を強くして活動を進めているうちに日本橋の首都高の地下化が決定されました。東京駅は完成しておりますので、残るは江戸城天守です。再建費用は約450億円を見込んでおりますが、その資金は入場料等を見込めば国の費用を頼らなくても再建できると思われれます。問題は後程述べますが、場所が天皇のお住いの近くであるということです。

### 寛永度の天守とは

徳川家光の造った寛永度の天守は、設計図(建地割図)が一枚残っており、それをもとに再建すれば当時の建物は再現できます。この天守は銅葺き銅張りで、地下一階地上5階の

大変贅沢で大きな建物ですが、土瓦に比べて重量も軽いので地震に強くできています。また高さは地上から59・6mあり、形も整った史上最大の天守です(マンションでいえば18階に相当)。容積は姫路城の約3倍になります。このような建物をほとんど釘も使わずに組み立てる技術は日本が世界に誇るべきものであり、伝統木造建築の集大成ですので大切に継承しなければなりません。そして檜をふんだんに使っており、2階から3階に通ずる通し柱13本は実に一辺が51・5cm角で長さは16・5mもあります、その他39cm角の檜柱を約百本使っていますが、現代の日本でこのような檜を探すことはほとんど不可能です。そこで再建するには接柱はぎばしらと言って柱を集めて固めた集材を使うこととなります。これは強度が非常に強く、東大寺大仏殿にも使われておりますし、何よりも現代では強力な接着剤がありませんので、昔より強化された建物になるはずですので、また壁面なども火に強い合板が開発されておりますので大いに活用するべきです。ということは材料を含めて昔と全く同じ建物を造ることは無理であるということです。エレベーターやスプリンクラーの問題や耐震化の問題もあり、それに対応しなければなりません。したがって昔と全く同じに建てることはできませんので我々は再建とは言わずに「令

和の築城」と言っております。

## 今後の取り組み

明暦の大火後、幕府は天守を再建するつもりで天守台を組み直したのですから我々は何とかその思いを引き継がねばなりません。そこで最も気をつけねばならないことはあの土地が宮内庁の管理する皇室用財産で天皇のお住まいの近くであるということです。現在の天守台から御所までは650mほどあり、途中乾堀で区切られているので騒音はそれほど心配はないと思われませんが、むしろ治安の面で心配ですので、天守の南西側の扉は常時閉めておくべきと考えます。

## 城は日本人の誇り

2019年に大阪でG20サミットが開かれましたが、世界のリーダーたちが並んで記念写真を撮った場所はやはり大阪城の前でした。天守の形は日本独特のもので、世界のどこにもありません。日本の国内の主要都市には城や天守がありますが多くの都市の中心になっっています。東京にもそのような天守が聳えていたらどんなに素晴らしいでしょう。合成写真を作成してみました但那姿は決して違和感がなく周りの景色によく溶け込んでおり素晴らしい眺めです。

最近宮内庁は実物の天守の30分の1の模型を作成し、東御苑の中に展示しております。大変精密に出来ている模型ですので、是非ご覧になることをお勧めします。その東御苑を歩いてみても外国人の多さに驚きます。彼らは石垣だけの天守台の上に登って、どうしてこの上に建物が無いのか不思議がっております。

ところで訪日外国人の数については、日本はここ10年間で飛躍的に増えており世界の各国から注目されております。2011年から621万人であったところが2019年には3188万人となりました。因みにこの年の訪日外国人の消費額は4兆8135億円でした(当時は1ドル109円)。日本は天然資源が少ないですが、歴史や文化、伝統・食事の財産が有りますのでそれを活用してGDPを増やすべきです。安倍内閣の時に2020年には訪日外国人を4000万人にし、2030年には6000万人にしようと計画を立てていましたが、残念ながらコロナで中断させられました。即ち2020年は411万人、2021年はわずか24万人でした。今年2022年はまだどうなるか分かりませんが、もし2019年の半分でも日本に来てもらえれば、計算によると日本のGDPの0.75%押し上げる効果があるそうです。今後コロナが明ければまだまだ期待が持てますし、2030年の6000万人

も夢ではありません。それには江戸城天守が大きな力を発揮するでしょう。各国も観光に力を入れ始めており、米国も現在の7000万人を2027年には9000万人にしようという計画を立てております。要は各国の競争なのです。そして観光とはアンブレラ産業と云って意外にお金が落ちるものですが、インフラが整っていないと観光客は来ません。毎年4000万人来るタイは5つ星ホテルが112軒ありますが、日本は32軒です。空港、港、交通網等まだまだ整備しなければなりません。言ってみればその国の持っている国の潜在力が観光客の数に表れているといってもいいでしょう。

我々NPOも東京の歴史文化のシンボルである天守を再建するためにこれから世論喚起のために大いに活動しなければなりません。そして政治を動かす必要がありますので、衆議院議長と参議院議長に宛てた請願署名の運動を開始しました。これにより世論喚起と同時に政治にも動いてもらおうと考えております。昭和の時代に皇居の北の丸に武道館を建てた時には国会で決議されました。それと同じことをする必要がありますので皆様にもぜひご注目いただきお力をお貸しいただければ幸いです。

## 〈個人会員親睦会〉

# 「はつらつふれあいの集い」

「はつらつふれあいの集い」は当協会の主に個人会員を対象に会員相互の交流、親睦を目的として年一回開催する主要行事の一つです。ところが新型コロナウイルスの影響で2020年、2021年の二年間は開催を模索しましたが、残念ながら開催には至りませんでした。しかし、一向に収束が見えないコロナの状況をみたま、このままでは個人会員の協会離れが危惧されることから、コロナ禍でも行え

る形を目指し「はつらつふれあいの集い委員会メンバー」が英知を絞り、例年のホテルとは違い、まずは会場探しの一からの企画作りを始めました。

その結果、今回は、11月9日（水）神保町のNLPジャパンラーニングセンターで13時からの開催に至りました。

当日は、11時45分から、案内係、受付係、会場設営、パネル設置、抽選係に分かれ、委員会メンバーと応援メンバーの協力で準備をし、時間に間に合わせました。

12時30分に参加者の入場開始、受付で検温、消毒、地域会からのお土産をお渡しして、会場に入ると地域会、同好会のパネルが見られるように導線を考えました。

今回も物販コーナーには、きたざわサロン



田林顧問の音頭で乾杯

（手作り品）、虹の子会（クッキー等）、高知県野菜、仲町さんCD、田口さんCDと盛り沢山の商品が用意されました。



吉川理事長挨拶



地域会・同好会のパネル展示

いよいよ懇親会が石井専務理事の開会宣言で始まり、吉川理事長からは挨拶と今年度の役員紹介を行いました。  
伊藤委員長（常任理事）から新入会員紹介を行い茨城の新米をお渡ししました。



物販コーナーは盛況でした

参加者の最高年齢の田林顧問による乾杯で、さあ〜楽しい集いの始まりです。  
お弁当と飲物とお茶菓子で始まりましたが、このお弁当が美味しいと皆さんからの評判で、飲物も十分であったとの意見を多く頂きました。  
アトラクションの一番目に前のスクリーンで同好会等の展示パネルを流しました。展示



恒成会員と白石会員とで護身術を披露

パネルと同じものでしたので個々の説明はしませんでした。説明が欲しかったとの意見がありました。  
次に女性のための護身術として、恒成会員からご指導頂いたのですが、暴漢役の白石さんとの絡みがまるでコントのようだと笑いがあり、皆さんが楽しめたようでした。護身術はしっかりしたもので男性の方も家で女性に教えてほしいと感じました。

続いてのハープ演奏では、熊谷会員の奥さまと師事されている吉田先生のお二人がパラグアイの民族衣装（ニヤンドウテイ）を纏いアルパ（楽器）で、ウクライナが舞台の映画「ひまわり」のテーマ曲、「コンドルは飛んで行く」等外国の曲と日本の曲の8曲を演奏して頂きました。

皆さんの手話で「この広い野原いっぱい」を歌ったときには、会場が一体となり、感動的でした。

次に顧問の高島さんによるストレッチ体操で身体をほぐしましたが、これが座りっぱなしの身体には良かったとのことでした。



熊谷会員の奥様と吉田先生のハープ演奏



抽選会風景

アトラクションの最後は、恒例の会員のプロ歌手田口さんと仲町さんによる迫力のある歌で締めました。

さて、皆様お待ちかねの抽選会のお時間です。今回は状況に鑑み、出席者は60名の人数での開催でしたので、全ての方に当たる様にと景品を多数ご用意致しました。

抽選品引き換え場所では少し混雑しました

が、皆さん何かしらの景品を頂いたことと思います。

協賛法人の㈱ミツウロコグループホールディングス様と損害保険ジャパン㈱様には多数の協賛品を頂き感謝申し上げます。

また今回は、出店頂いた㈱HPG様と㈱オーラルプラス様には、演壇で商品の説明を行なって頂きました。結果、高齢者向けの品物であることで多くの方に購入して頂くことが出来ました。

手作り感満載の今回はいかがでしたか。

皆様楽しんで頂けるかと心配でしたが、多くの方達から良かったとお言葉を頂いたことは、このコロナ禍の何かと心配な中、「はつらつふれあいの集い」の委員が一丸となって取り組んで来ただけに、一同心から感謝と安堵を感じています。

次回以降は、コロナを気にせずに開催出来ることを願って会場を後にしました。

出席の皆様ありがとうございます。

最後に、会場をご提供いただいたNLPジャパンリーニングセンター様のご配慮にも感謝いたします。

（伊藤春江）

〈委員会 紹介〉

## 仲間を増やしましょう！

会員対策委員会 塩山哲郎

業務委員会の整理統合があり、2022年度から法人会員対策委員会と個人会員対策委員会が統合して「会員対策委員会」となりました。法人会員数は11月末現在25社となっております。関東地区の個人会員数は11月末現在401名となっております、平均年齢は年々上昇して75歳を超えております。

協会活動の企画・運営を支える個人会員数が近年大幅な減少傾向にあります。退会理由の多くは高齢化に因るものですが、特にこの3年間は新型コロナの感染拡大で自粛生活が長くなり、イベント、講演会等の大半が中止となった事が大きく影響したと思われます。

### 〈会員紹介キャンペーンの実施〉

協会ですべての試みとして個人会員増強の為に、9月1日から11月30日迄の3か月間「会員紹介キャンペーン」を実施いたしました。新入会員、会員紹介者に特典を付与し、目標50名を掲げ、協会（4地域会）あげて実施した結果、9月18名、10月11名、11月27名、合

計56名の新入会員を獲得することが出来、目標を達成いたしました。ご協力いただきました会員の皆様方に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 〈会員増強のお願い〉

協会活動を円滑に運営し更に魅力アップする為には、法人会員の新規勧誘、個人会員の増強が不可欠です。会員の皆様は友人、知人に日退協についてお話しされることがあると思います。その際は協会のホームページをご案内しながらお話しただけると、よりご理解を得られると思いますので、普段から是非ともホームページの閲覧・活用をお願いいたします。

- ・皆様の同僚、友人、趣味・サークルのお仲間をご紹介ください。
- ・出身会社のOB組織への働きかけをお願いいたします。
- ・各地域会のイベント等での会員勧誘をお願いいたします。

## 業務委員会一覽

(2022年7月)

- （\*推進部会）
- 総合企画
  - \*企画・法務・コンプライアンス
- 会員対策
- 社会参加支援
  - \*チャリティコンサート
  - \*きたざわサロン
- 事業開発
  - \*事業開発・エンディングノート
  - \*SDGs協働事業活動
- 広報
  - \*機関誌編集
  - \*ホームページ・生活情報提供
- 広島・地域会
  - \*地域会
- 講演会・親睦会
  - \*トークサロン
  - \*はつらつふれあいの集い
- 事務局

## 農園雑感

神奈川県 石川義明



春さきに植えたさ

つま芋の苗が大きくなり成長しまるまると太ったもの、ほっそりスリムなもの等大量に出来上がった。また大きな葉を誇らしげに広げた里芋も、葉は枯れたが土の中には立派な実りが、早く掘り出せと急かせる。

約二十年前、近所の専業農家のほんの片隅を借りて始めた畑、野菜づくりのノウハウがまったく分からず、教えを請うた先達の手ほどきで何とか続けてきた。その師匠も他界し、また隣り合わせの先輩もリタイア、後を頼まれ引き受けて今や管理も難しい程の農園となり、年間三十数種類の野菜を栽培している。四季を通しての作業は多岐にわたり、早春

の土起こし、雑草取り、種蒔き育苗、水やり害虫駆除等、どれも欠かせない作業である。雑草、野菜くず等を積み上げ米ぬかで堆肥をつくり、無農薬有機栽培を実行、虫との闘いでもある。

野菜に語りかけ土寄せしながら成長を促す、手をかければかけただけの見返りはあるように思うが、年々歳には勝てず現状維持は難しくなってきた。収穫出来た野菜は大半をご近所さんや友人知人におすそ分け、我が家での消費はごく僅かであるが、コミュニケーションに役立つしていると自画自賛している。

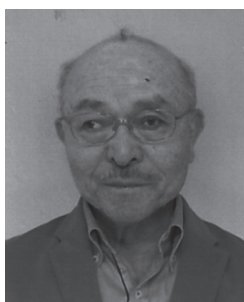
冬場の農閑期はさつま芋、大豆を加工し、乾燥芋、手作り味噌をつくる楽しみもある。さつま芋をふかしスライスして天日干し、大豆を一晩水に浸し茹でて潰し、米麴と塩を加えて練り上げ、桶に詰め込み一年寝かせると無添加で素朴な自家製の味噌が出来上がる。これもまた農園の楽しみ方でもある。

近年コロナ禍で生活スタイルの多様化が進

み、家庭菜園を楽しむ人が増えている反面、高齢化により農地が放置され、人の立ち入らなくなった畑には雑草がはびこり、小動物の住処となり治安の問題が発生、農園を楽しむ者としては、対策の必要性を感じる。

## 北海道の冬模様

埼玉県 岩渕芳夫（札幌市在住）



埼玉の上尾市から

札幌市に移住して、昨秋で八年を経過しました。サラリーマン時代に二度の異動で計七年間居住した地でもあり、子供たちも近くに居るので、終の棲家と決断した次第です。

表題はこの拙文の掲載時期を考慮した産物で、冬の厳しい北海道を強調する魂胆はない事をお断りしておきます。



「北海道はでっかいぞう」で、東西南北で、四季の感じ方はかなり違うようです。それを前提に目を通してください。

札幌市に住んでの感覚では、ほぼ一年の半分が冬場です。大雑把に言うと、十一月から四月までとなります。

冬到来の前触れで、特徴的なことを二つ挙げたいと思います。ひとつは、「雪虫」です。白い綿状の分泌物をつけて群れ飛ぶさまが、雪の降るように見えるからと言われております。もうひとつがナナカマド(バラ科の落葉高木)です。この木は「大変燃えにくく、七度かまどにくべても燃え残る」ということから付けられたという説が広く流布しています。北海道では街路樹や公園樹としてよく見られます。この木の果実が真っ赤になったら冬近し、の合図です。

北海道内で最も寒さが厳しいのは、道東の「陸別」と言われますが、同じ道東に位置する帯広と釧路で私が経験したことを記します。

その日、帯広の社員と別れて反対側の通路へ渡ろうとした際に、ツルツルの状態のうえに向かい風もあって、見事にすってんころりん。

怪我はなかったものの、当時の模様を今で

も鮮明に記憶しています。

また、釧路で電車に乗り込む時のことです。駅周辺の人だかりがやけに少ないので、呑気に構えていたら、列車が入ってきた途端、押すな押すなの大混雑。厳しい寒さを避けて、ホームに人が出ていなかったので。

## 無二の友人との出会い

西東京会 遠間ひで子



2006年秋、会

社勤めも終わりご褒美旅行で、12日間のイタリア旅行に出かけた。そのツアーで

ご一緒だったご夫婦との遭遇について。

ツアーメンバーは新婚さん2組・老夫婦3組の10名。老夫婦3組は、元ホテルマンとご夫婦とも学校の先生だった山梨県の方でした。行動は新婚組と老年組に分かれてしまい、毎日6人で行動していました。食事時は元ホテルマンの方がワインを見立ててくれ、「飲みますか?」「飲みましょう」とまだまだ遠慮がちなのですが、2日目以降は飲むのは当然に変わり12日間楽しく過ごしました。



ピサの斜塔

特に山梨の方は、奥様が舅・姑を看取りご主人からのご苦労さん旅行でした。山梨のMさんは中学校の校長さんだったとのこと。温厚でお話し好きでとても親近感を持ちました。旅行が終わり、写真の交換等をしているうちに、山梨に遊びに来ないかとお声がかり、家にまで泊めていただくという関係になりました。

この16年間に海外旅行は「アラスカの船旅」、「中国の九寨溝・黄龍・黄山・敦煌」等にご一緒しました。船旅も日本一周を2回。コロナ禍でお休みがりましたが一昨年は震災後の東北支援旅をしました。

そのほか年に一回はMさんの近くの温泉に

1〜2泊の旅をしています。昨今は認知症の主人を抱えていますので、中央線の最寄り駅まで車で迎えに来ていただき車で移動をしていただいているのでとても助かります。旅での出会いが親戚以上のお付き合いになり、本当に宝物です。大事にしたいと思います。昨年11月に裾野まで見える富士山が見たいとの提案で、富士山温泉に行ってきました。



Mさんの甥御さん経営の中華料理店前で



河口湖近くの道の駅で撮った富士山

## 上野公園にて

京葉会 後藤憲子



8月、まだ夏の盛りの頃、上野公園を独り散策する。上野は「えっ、こりだ。」「えっ、こ

んな所にホテル？ いつ、建ったのお〜？」久しぶりの上野に驚く事ばかり。昔の趣が削がれる感じ。彰義隊の碑に手を合わせ、隣の清水堂へ。そこから、不忍池を眺める。その昔、琵琶湖を模して造られたという不忍池、そして竹生島ならぬ弁天島が賑わいをみせている。上野公園の敷地は元々は上野駅まで続いており、その広さは江戸城と同じ位の面積だったと郷土史家より聞いた記憶がある。また、江戸城が万が一攻められた時の為に逃げ込む場所としても考えられていたと、その時聞いた。上野は史跡の宝庫である。私はこの辺りを歩くのが好きだ。

昼時になり久々に伊豆菜でランチタイム。手早く昼食を済ませ、また歩き始める。今度は下町風俗資料館へ。深川江戸資料館より少

し規模は小さいがタイムスリップして江戸の町が楽しめる。資料館を出て池の周りを散策。

そういえば中学生の頃、母と二人で屋台のおでんを食べたのはこの辺だったか。あの時、何の串だったか忘れたが、串ものを1本ずつ食べただけなのに何と3500円も払わされたのだ。今、考えても串もの2本で3500円は幾ら何でも高すぎる。その数か月後だったか、上野公園で高額請求の屋台が横行しているのに注意するようという新聞記事が載っていた。私たち母娘は完全にカモにされたのだ。上野に行く時、いつもその事を思い出す。弁天島の幟がはためいている。私も老骨に鞭打ちこれからも頑張って生きて行かなければと改めて強く思い直した一日だった。

連れのなき散歩小春の三回忌 憲子

## 新聞記者時代の思い出

広島支部 小野浩二



昨秋まで43年、中国新聞社に勤め、うち約30年は外勤の記者職だった。退職後は紙屋町交差点近

くの碁会所のオーナーになった。中学と大学で全国優勝経験がある34歳男性に運営を任せられている。常連客の大半は70代以上の男性。店の3人の女性も好評で、昨年は日本棋院の会員数増が全国2位だった。

年をとっても囲碁で頭を使い、異性と楽しく話すのは元気の秘訣かもしれない。お年寄りが山の葉を集めて細工を施し都会の料亭などに販売している徳島県上勝町の三セクを取材した際、経営者は「仲間と競ってお金を稼ぐことが若返りに繋がった」と話していた。逆にハワイの日本人向け高齢者施設では「環境が良すぎるせいか日本本土より平均寿命が10年ほど短い」と聞いた。家族や近所といがみ合っても長生きするのが良いか、「天国に近い島」で早死にするのが幸せか、考えさせられた。

記者時代の大半は政治担当で、本社の報道部や編集委員のほか東京、岡山、三原、山口の支社局に勤めた。東京では村山、橋本、小淵政権時代に官邸記者クラブで取材した。橋本総理に同行し中南米5カ国歴訪と英国でのサミットに行った際、政府専用機に乗った。客室乗務員の女性自衛官からピストル射撃の練習の話聞いたのが印象深い。

広島アジア大会の参加国を歴訪取材した際、サウジアラビアで女性のいる風景を撮影した容疑で宗警察に逮捕された。日本とは価値観の違う異文化体験の貴重な思い出だ。

三原支局で駆け出しの頃、画廊喫茶に拙い絵を飾っていた高齢の漁師を取材した。男手一つで育てた一人息子が新婚旅行先で交通事故死したショックで何年も家に閉じこもっていた。新聞に記事が載ったことで近所付き合いを再開し、漁にも出るようになった。私の記者生活の原点はここにあったと思う。



## ご支援ありがとうございます。

当協会に2022年6月以降ご寄付いただいた方々を紹介させていただきます。18名の方からご寄付を賜り、厚く御礼申し上げます。前号で紹介した145名との合計では年間163名となりました。

なお当協会は特定公益増進法人ですので、確定申告をして所得控除を受ける方用に、昨年12月に領収書等関係書類をメール送信しています。(メールアドレスなしの方には郵送)

○ご支援いただいた皆様(敬称略・50音順)

伊藤春江 井上やよい 大石裕子 大友喜一 狩野秀昭  
川上教子 坂本信三 高橋むつみ 富川正 豊田和子  
中川洋子 中根和子 宮崎正子 宮野三良 森秀雄 森洋子 矢倉俊彦 山田雅彦

※別途広島支部では年間99名の方からご寄付を賜り、「日退協広島支部30年の歩み」で名簿を掲載しております。

### 【お詫び】

前号(115号)寄付者一覧中、古谷信雄様のお名前に誤字がありました。古谷様には深くお詫び申し上げます。

## ●庭と庭木のイージーケア化

神奈川会 飯田吉辰

3年を超えて続くコロナ禍・加齢・大病による後遺症などにより、長年楽しんできた庭の手入れが時として苦痛・危険を感じるようになってきた。先行きの不安を考えると、庭木を脚立なしでも剪定できる高さにまで切り揃え、わずかに残った芝生部分も全て剥ぎ取るなど、高齢者でもメンテし易い庭に変身させたいと考えている。

金木犀・山茶花・柘植・花桃・ヒメシヤラなどの中高木が7本あり、作業は容易ではないと覚悟しているが、無理のない範囲で今年中に何とか片を付けたいと思っている。実行あるのみ。

## ●今年こそ断捨離を実行したい

神奈川会 吹田文彦

私も80歳を超える高齢になり、毎日健康に気を付けながらすごしている。残り少ない人生を、もっと簡潔で楽しくすごすために、今年こそ、

なかなかできていない身の回りの整理・整頓を進めて行きたい。

たとえば、書籍、アルバム、衣類やゴルフ道具などの不用品を見直し、思い切って断捨離する必要があると感じている。それらを片付けることで、毎日が簡潔でもっと豊かに送れるような気がする。

最後に、「エンディングノート」の見直しの実行も付け加えたい。

## ●今年こそ

無理なくイベントの開催を

埼玉会 小林繁治

新型コロナウイルスが蔓延し始めて3年が過ぎました。ウイルスは変異を重ね、人間の周囲で生き延びようとしています。

心ゆくままに各地を訪ねることのままならない中、当協会もかつての様々なイベントの多くが中止の憂き目にあっています。

とはいえ、世界中でワクチン開発等の努力が続けられています。当協会の各担当者もそれぞれ苦労して、

限られた環境下でも、十分な注意と対策を払いながら規模も考慮して少しずつでも無理なくイベントを開催していこうとしています。落胆せず、知恵と工夫を重ねながら、積極的にイベントの参加が増えるように願います。今年こそ、流行の収束と多くのイベントが賑やかに開催できるといいですね。

## ●今年こそコロナ終息を

埼玉会 関谷一郎

3年間は我慢しなければという私の予想をはずれ、コロナ禍の騒ぎも4年目に入りそうです。今年こそ、コロナが完全終息して、コロナ前の日常に戻りたいと願っています。マスクをしないで外出できるようにすること、大人数での飲み会、旅行ができるようになること、老人ホームに入居中の義母の面会が自由にできるようになること、そして何よりも孫たちの運動会、学芸会を見に行けるようになること。ただ、海外旅行は円安で、もう難しそうです。

## ●卒業1年生

西東京会 分部政行

昨年3月に会社組織から離れて顧問契約となり、皆様の仲間入りをさせて頂きました。今年こそ〇〇のテーマを頂きましたが、卒業1年生の私は、今年から何をすればと思うばかりです。

人生100年と言われる昨今ですが、残された時間を如何に有意義に過ごすかを考え、元気なうちに妻への恩返しも含め色々な所に出掛けたいと思っています。神社仏閣巡りやハイキングなどで脚を動かし、なるべく長く健康に動ける様にと考えています。

## ●今年こそ実現したいMLB観戦

西東京会 深井直行

本場アメリカで世界一の野球選手として認知され、年齢的にも最高の時期を迎える大谷選手を現地で見たいと思っています。私が最初にMLBを観戦したのは1973年東部のフィラデルフィアでした。

その後、野茂投手が1995年にドジャーズへ移籍後、多くの日本人選手がアメリカへ渡り、私自身も機会に恵まれ、彼等のプレイを観戦してきました。

MLBの球場は雰囲気も良く、最高のプレイが堪能出来る球場です。

### ●今年こそおかげの一品

京葉会 尾利出 収

朝鮮戦争勃発の年に誕生、大学闘争、高度経済成長、バブル崩壊をへ厚労省発表の2019年健康寿命の都道府県別平均年齢で、住まいの千葉県男性の72・61歳に近い年齢となりました。現役時代、9年間の単身赴任生活においても、外食（酒中心）、テイクアウトの連続で、手料理を作る気持ちなど毛頭ありませんでした。

新年より、健康寿命を延ばし、家族に迷惑をかけないよう、認知予防の為に、おかげの一品位は作れるよう実践したいと考えております。

### ●今年こそ

「二万歩ウォーキング」の達成を

京葉会 大友 彰

何時の頃からか、毎日一万歩を歩くことが自分にとって大きな目標に

なっていた。

若い頃には殆ど読んでいなかった新聞の健康欄にも最近では目を通し、切り抜きまで始めている。もともと、一万歩のウォーキングも記事を読んだら始めた事で、いや、正確に言えばまだ始まっていない。なぜなら「今日は天気が悪いから明日からにしよう」とか、「今日はちょっと腰が痛いから、良くなってからにしよう」とか、いろいろ理屈を並べてその目標も未達成だからである。

今年こそ、有言実行とは行かないまでも、有言半実行にはしたいと思っている。自分の健康のために。

### ●今年こそ美文字？

広島支部 山本英子

あちこちで署名をする度、「あ、もっときれいに名前を書きたい」と思っていた。昨年ふとしたことから近所の公民館のペン習字教室に入会し、半年が経過した。もちろん、若い時に「あなたはきれいな字より読める字を心がけた方がいいですよ」と言われた文字がすぐにきれいななるとは思っていません。しかし、毎日少しずつ、背筋を伸ばしてペンを握っていると、何事も基礎が大事

ということがよくわかった。焦らず続けようと思う。

### ●今年こそは山野草の整理

広島支部 佐々木由紀子

「今年こそは」……。毎年、年の初めに誓いをたてて、それでも3日ともたず、何十回となるのでしょうか。人生の残りの方が少ないのに凝りもせず「今年こそは」と思いを馳せています。断捨離です。まずは趣味で集めた鉢植えの山野草たち、鉢の数々等。山野草は、枯れたり根腐りしたものは補充せず、新しい鉢も買わない。小さなことから始めようと思えます。やらなければいけないことはまだまだ沢山ありますが……。

### ●今年こそ「ひとり旅」を

広島支部 藤岡寿美恵

いい歳をしてひとり旅をしたことがない。今年こそはいろんなスケジュールを掻いぐぐってチャレンジしてみたい。まず時季と場所を決めよう、眠っている旅本をだして……。

決心すると早い。人との調整を考へなくてよい、ひとり旅なんだから。ボケないよう、頭、目、耳、足を最大限に駆使して。今まで見えなかつ

た世界を感じられるだろうか。楽しさと不安が交錯するがやってみる価値あり。

### ●今年こそ

コロナをマンドリンで追い払う

広島支部 泉本剛男

マンドリン教室を夫婦で主宰して20年。広島市のボランティア団体として慰問演奏に出掛けています。好評で一年先までの予約が入っていました。思い出すのは癌のホスピス病棟での演奏。大いに歌い踊って愉しいひと時を過ごし「有難う。お元気で。また来てね」と玄関で手を振られた院長

先生他皆さんの顔、顔、顔。ところがコロナ禍で全ての予約が打ち切り。今年こそコロナをマンドリンで追い払い、慰問演奏の再開に向けて頑張ります。



# 同好会だより

## 詩吟会

### ■10周年記念温習会を開催

日退協で一番新しいサークルの当会は、令和4年で10周年を迎えました。これを記念して7月21日（木）に全会員12名参加で日頃の成果を確認すべく、所沢航空公園内の茶亭「彩翔亭」を借り切り、第9回「温習会」を開催しました。



茶亭「彩翔亭」にて

薄井是道先生のご指導の下、コロナ禍で制約はありましたが、会員の熱心な詩吟愛を追い風に毎月2回の練習日を漢詩や自由詩を楽しみながら活動して参りました。

温習会では各自お得意の吟題を披露し合い、日頃の成果を確認しました。これまでに約100吟近い吟題を練習し、時には外部吟詠コンクールにも挑戦して入賞するなど着実な成果もありました。

今年も新人（80歳）1名の参加もあり、会員の高齢化はありますが今後も活動を続けながら、会員同士の交流の輪を広げていきたいと思っています。ご興味のある方は大歓迎いたしますので、ご連絡をお待ちしています。（倉片厚子）

## 鎌倉探訪

■鎌倉殿の13人・源頼朝、北条義時ゆかりの地をたずねて

新型コロナウイルス拡散拡大で中止となっていた鎌倉探訪を三年ぶり



覚園寺にて

に開催しました。同好会の中でも歴史があるこの会は、過去132回を数え、鎌倉市を中心に近隣の神社仏閣を訪問、毎回テーマを決め、鎌倉幕府の足跡と神社仏閣の由緒を学んできました。

コロナの感染が治まってきたのを期に、再開の要望が多数の方からあり、今回感染対策を充分に行い実施することになりました。リニューアル第1回目、今年の鎌倉の話題は何と言ってもNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」です。鶴岡八幡宮の境内にはドラマ館が設置されています。そこで「鎌倉殿の十三人・源頼朝

北条義時ゆかりの地をたずねて」をテーマにこのドラマの主人公である、北条義時と源頼朝の足跡を訪ねることになりました。

当日（10月14日（金））26名の参加者でバスに乗車、最初の目的地の覚園寺に向かいました。この寺は鎌倉幕府二代執権・北条義時が建保6年（1218年）に薬師如来を安置して建立した大蔵薬師堂が前身と言われています。境内は広大な敷地でもみじの木が非常に多くあり、紅葉の時期は素晴らしいが、残念ながら少し早かったです。山門をくぐり愛染堂、薬師堂、地藏堂と参拝、拝観受付所から先は「祈りを捧げる空間」として草木を含め撮影禁止のため心の中に留めるしかありませんでした。続いて義時法華堂から源頼朝墓（法華堂跡）（頼朝の持仏である聖観音を本尊として文治5年（1189年）に建てられた）。墓は鎌倉幕府初代將軍の墓とは思えない質素で小さいものでした。次に大蔵（鎌倉）幕府跡（源頼朝、頼家、実朝の源氏三代の居所、武家政治の中心の場所）、政所跡（鶴岡八幡宮の東隣に置かれ、一般政務・財政・訴訟等、庶務一般を司つ

# 地域会・広島支部だより

## 神奈川会

### ■第70回イベント

「横須賀軍港めぐり」と「日本近代化の足跡」を訪ねて

(9月22日 参加者18名)

久しぶりの鎌倉探訪でした。諸般の事情により懇親会はできませんでしたが、少人数での会食で思い思いの鎌倉を満喫できたことと思います。次回は紅葉の鎌倉訪問を計画します。

(石川義明)



当日は雨が心配されましたが、曇天ながら穏やかな日になりました。京浜急行汐入駅に18名が集合、ウクライナの問題もあり関心は高かったようです。徒歩わずか5分で観光船の波止場に到着。お目当ての「軍港めぐり」の所要時間は45分、横須賀港は1853年ペリー艦隊が来航して以来、近代的造船所、海軍工廠、そして軍港と発展してきました。現在では、海上自衛隊基地とアメリカ海軍横須賀基地の併設港となっているため、当日も米海軍のイージス艦、潜水艦、そして駆逐艦（残念ながら航空母艦は不在）、また海上自衛隊の最新鋭護衛艦・潜水艦・南極観測船「しらせ」をはじめとする多くの軍艦・特務艦が繫留されていました。

解説により現在の世界情勢の一端に触れるところもあり、大いに刺激を受けた次第です。

昼食は各自自由でしたが、半数の方は有名な「海軍カレー」を選択、中辛の口に優しいカレーでした。午

後からはヴェルニー公園を散策、記念碑には横須賀製鉄所・造船所の建設に尽力した小栗上野介と私人技師達の近代国家建設への情熱が記されていました。また、私人技師ティエボティエ氏の官舎を再建した小さなミュージアムではその時代の複雑な情勢と関係者の努力と苦労の一端に



ヴェルニー公園内にて

触れることができました。さらに希望者は大型スクリーンによる建設当初の造船所の模様を再現した動画を見ることができました。心配された雨もほとんどなく、一日を楽しく有意義に過ごすことができました。

### ■第6回・秋の狂言鑑賞会

(11月13日 参加者26名)

会員には手ごろな娯楽と始めた会も第6回目を迎え、参加者も26名と倍増しました。

今回は「地藏舞」「真奪しんはつ」の式曲を大蔵流茂山千之丞の解説で約2時間にわたり鑑賞しました。

旅僧の投宿技地藏舞と伝統文化立花の真をめぐる争奪が面白く舞われ肩のこらない狂言鑑賞会となりました。

「横浜能楽堂毎月第二日曜日は狂言の日」のキャンペーンに乗り、年1回の鑑賞会としてきましたが同好者が増えるようでしたら、春秋の年2回開催を検討したいと思います。

(長澤征次)

## 埼玉会

### ■第67回イベント 「草加宿と草加松原」

(9月15日 参加者18名)

9月15日(木) 草加駅から2班に分かれて地元ガイドさんの案内でスタートしました。

9月に入っても連日の猛暑日で、その中での街歩きになるかと心配しましたが、当日は昨日までの残暑とは打って変わって清々しい秋晴れで、時折吹く風も涼やかで街歩きに最適な気候でした。草加は10年ほど前にも街歩きしたことがあり、今回は二度目となります。



草加せんべい発祥記念碑の前で

草加駅前には10年前よりもビルが立ち並んでいる感じで都会的に整備された町の印象を受けました。でも、一本隣の通りに入ると、宿場の面影はないものの昔の街道を偲ばせる「芭蕉も歩いたのかなあ」と思わず想像してしまう佇まいでした。

10年前にも訪れたおせんべい屋さんで手焼きを体験。お店の方に丁寧に教えていただき、出来立てをおいしくいただきました。お土産のおせんべいも忘れずに買いました。

おせん茶屋、東福寺を経ておせん公園で2班が合流。おせん公園は旧日光街道沿い、草加宿の北端にある小さな公園です。公園からは芭蕉や曾良の像も見えました。草加せんべい発祥記念碑を背に、ガイドさんたちにも入っていたいで記念写真を撮りました。その後は芭蕉も歩いた綾瀬川沿いの数百本にも及ぶ松並木をみんなで一緒に散策しました。

まず、最初に出会う太鼓橋の矢立橋。今回は上りませんが、10年前に上ったときは、橋の上からは松並木の遊歩道と綾瀬川が彼方まで見渡せとても素晴らしい光景だったことを思い出しました。10年前はス

イスイ上ったのですが、今回は下道を歩きました。その先にある二つ目の太鼓橋は「月日は百代の過客にして行きかう年もまた旅人なり」から採られた百代橋です。今回は獨協大学前(草加松原) 駅が旅の終着点なので橋は渡らずに、左に折れて真直ぐ歩き、駅で解散となりました。

(笹本美和子)

### ■第69回イベント「秩父札所巡り 番円融寺27番大瀨寺」散策

(11月18日 参加者17名)

13時に秩父鉄道「影森駅」前に15名集合。徒歩にて円融寺に向かいます。万松山円融寺は臨済宗(禅宗)の古刹で、江戸の中期に建てられました。本尊は聖観世音菩薩で以前は

奥の院の岩井堂に安置されておりましたが、このお堂は無人で山の上にあることから、現在はここ円融寺の本堂に収められています。次は「琴平神社」に向かいましたが、この社は「昭和電工」の敷地内にあるため、入り口で守衛さんに通行の確認をして入りました。この琴平神社の創建年代は不詳ですが、天正5年(1577年)と記された碑が残されていることから、安土桃山時代には

祀られていたと思われる。さて、この社は150段ほどの石の階段を登らなければ参拝できませんが、15名のうち5名は登るのを断念し、下で待機。喘ぎながら登ると、左手に奉納用の相撲の土俵があり、その先10段ほどの石段を登ると社がありました。この地は、斎所山の麓にあり、この社の奥の院の地で武甲山を神と崇め、水乞いの神として琴平神をお招きしたと考えられ、熊野修験者が創建にかかわっているそうです。



秩父「琴平神社前」にて



が岩井堂です。この石段下まで皆さんをお連れしましたが、はるか彼方に続く石段を見上げて、とても登るのは無理と早々に神社前に引き返しました。

琴平神社前で2名が合流し、ここからは17名で行動。「昭和電工」の守衛さんに挨拶して、「大測寺」へ向かいます。

この寺は、難病にかかった僧・宝明に弘法大師が観音像を彫り、この僧に与えたところ、この像のおかげで病気が治り、宝明はお堂を建ててこの観音像を祀ったのが始まりと言われています。この後、電車で影森から秩父へ向かいましたが7名の方が途中の御花畑で下車（帰宅）し、10名で秩父神社を参拝しました。16時頃当神社にて解散。（菊池正美）

## 西東京会

### ■第55回イベント「親睦ゴルフ会」

（9月27日 参加者16名）

年一回の日退協・西東京会親睦ゴルフ会は9月27日、好天の下、多摩カントリークラブで開催されました。このゴルフ会は従来、日退協のゴル

フ会として青梅GCなどで開催されていましたが、数年前から西東京会が主催して狭山GCや多摩CCで行われるようになりました。昨年は狭山GCでしたが、多摩CCでの開催は3年ぶりでした。

4組16名を確保するために、日退協会員外ではありますが、今回幹事の私の友人で以前にも参加したことのある多摩CCメンバーの吉田、石上両氏に応援を依頼しました。

絶好のゴルフ日和ではありませんが、各自健闘するも、丘陵コース特有の高低差にも悩まされ、グロス100切りは3名のみでネット上位3名も同一人物でした。

さて、優勝は5年前ベスグロの石上氏、準優勝もエージシューターの吉田



多摩カントリークラブにて

氏といずれも私が応援参加を依頼した両氏となつてしまいました。彼らの実力を承知していたとはいえ、このような結果になると、幹事としてはいささか反省せざるを得ないかと。

会員諸氏の奮起が大いに望まれるところですが、あるいはこの両者を西東京会に引きずり込むべきかと……。

優勝の石上氏は今回もお手製の木象嵌のコースターとストラップのセットを全員への参加賞として提供してくれました。多謝！（小野利明）

### ■第56回イベント

#### 「多摩動物公園紅葉狩り」

（11月22日 参加者17名）

多摩動物公園は、1958年（昭和33年）上野動物園の入場者数の増加の中で、第二の上野動物園構想が持ち上がり、50haを超える敷地に柵がないことを観覧の基本として作られた動物園です。

11月22日（火）前日のどんよりとした曇りと、翌日の雨予想のなか、奇跡のような秋晴れになり、17名の参加者で「多摩動物公園紅葉狩り」を実施しました。

午後1時集合、入場後最初に全員でライオンバス（ライオンバスは

1964年（昭和39年）世界初のバスによるライオンのサファリ式観覧として実施されたものです）に乗車。残念ながら、ライオンは食事を終えたところでほとんど寝そべっており、迫力はイマイチでしたが、約15分間ツアーを楽しみました。

団体での行動はここまでで、その後は各自園内を自由に散策。多くの方は、コアラ館へ。コアラは近年オーストラリアの森林火災などで生息数が大幅に減っており、希少な動物となっています。日本では現在7か所の動物園でしか見ることができず、最初の来日時の人気はありませんが、



多摩動物公園にて

かわいらしさは相変わらずです。

園内はどうしても動物に目がいきませんが、多摩丘陵の紅葉も絶好の時期で目を楽しませてくれました。

解散後、有志による懇親会も開かれ、秋の一日を存分に楽しみました。

(松崎敏夫)

## 京葉会

### ■京葉会10周年

#### 第30回京葉会サロン

(12月14日 参加者17名)

新型コロナウイルスの影響で1月より休止していました「京葉会サロン」を京華スクエアに於いて開催しました。

2022年は京葉会設立10周年にあたりますので創立時の発起人である田林巖樹様に『京葉会創立から10周年を迎えて』と題して講演をお願いしました。講演では創立時のご苦労やその後の思い出に残る活動など貴重なエピソードや協会の今後の目指すべき方向をお話いただきました。参加の皆様は熱心に聞き取っていました。

京葉会は東京23区と千葉を中心として4番目に発足した地域会ですが、

会員数は最も多く会員

のまとまり

が課題と

なっており、

イベントな

どを通じて

会員の交流

の充実を図

ることが必

要です。京



懇親会でのひと言スピーチ

葉会ではこれまで史跡散策や工場見学・写経などのイベントを40回あまり実施しています。また5年前からは本部事務所「京葉会サロン」を開催し会員交流を深める場として提供しています。

講演後、本部事務所に場所を移し懇親会を開きました。恒例の芋煮を囲み参加者からこの1年を振り返りそれぞれ近況を交えてお話しいただき、10周年の記念すべき集いにふさわしい懇親会となりました。準備いただきました皆様、ご講演いただきました田林様ありがとうございました。

サロンは最後に京葉会の今後の発展と会員の皆様のご健勝を祈念して散会しました。

(長嶋良一)

## 広島支部

### ■共生社会を考える

令和4年11月に広島でスペシャルオリンピック大会がありました。これは知的障がいのある方々の自立と社会参加を目指し、日常的なスポーツ活動に取り組むアスリートの競技大会です。

私は大会最終日に行われた競技会表彰式に出席したところ、感動的なシーンを目撃したのです。スペシャルオリンピックの競技大会では参加したアスリート全員に対して順位に関わらず健闘を称える表彰があります。一人一人にメダルが授与され、アスリートはそれを手に取り合って喜び、応援してくれたコーチ、観客に手を振って感謝を表現します。

ところが、バスケットボールの試合に出場し上位入賞したアスリートの中で、一人の選手が表彰台に登壇



することを拒否し始めたのです。ボランティアが手を差し伸べると

起立せず大きな声で騒ぐようになりました。これは重度の知的障がい者に見られる一つの症状であり、それを理解する他のアスリートも、観客も励ましの手を振り続けました。

こうした状況の中、大会会長の有森裕子さんがメダル授与席から立ち上がり、アスリートの手を握り一緒に表彰台に登ろうと声をかけられたのです。そして先に登壇していた仲間のアスリート全員も駆け寄り、ようやくメダル授与式が行われました。そのアスリートにメダルが授与された時は会場にいた全ての方々からも大きな声援があり感動しました。

平成23年に障がい者基本法が改正され、「障がいのある人もない人もお互いに尊重し合って共生する社会の実現」を目指す理念ができました。知的障がい者のスポーツ活動場所に足を運んだ市民一人一人が一番多くの学びを得、感動と元気をいただいたと思います。人と人とのつながりと感動の共有を通じて、すべての人が互いの違いを超え互いの長所を認め合い、幸せを共有できる優しい社会、だれ一人取り残されない共生社会の実現を願っています。

(平手 清)

# 法人・団体会員名簿

(2023年1月1日現在) 50音順

- 株式会社イトーヨーカ堂
- 片倉工業株式会社
- 幸信商運株式会社
- 五洋建設株式会社
- 新富産業株式会社
- JFEスチール株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社
- 株式会社千葉興業銀行
- 株式会社千代田セレモニー
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 東京建物株式会社
- トキワ印刷株式会社
- 西松建設株式会社
- 日本カーボンプラステック株式会社
- ヒューリック株式会社
- 芙蓉総合リース株式会社
- プラスエンジニアリング株式会社
- 文唱堂印刷株式会社
- 株式会社ベネフィット・ワン
- 丸大食品株式会社
- みずほ信託銀行株式会社
- 株式会社みずほフィナンシャルグループ
- 株式会社ミツウロコホールディングス
- 安田倉庫株式会社
- 安田不動産株式会社

## 役員名簿

(2023年1月1日現在)

役員		顧問・参与	
会長	西浦三郎	顧問	上神圭二
理事長	吉川敏孝	顧問	榎本郁夫
専務理事	石井憲	顧問	梶田省三
専務理事	塩山哲郎	顧問	関根貞夫
専務理事	塩山哲郎	顧問	高島進一
常任理事	伊藤春江	顧問	田林忠樹
常任理事	西村康治	顧問	島山昭司
常任理事	大友彰	顧問	牧鹿康雄
常任理事	末松孝一	顧問	湯藤素哲
常任理事	清水勝	顧問	安藤隆夫
常任理事	石川義明	顧問	猪狩光也
常任理事	菊池正美	顧問	糸数富美江
常任理事	長嶋良一	顧問	井上国春
常任理事	出射義幸	顧問	岩渕芳夫
常任理事	白井正明	顧問	大里璋子
常任理事	長谷川芳春	顧問	木村一雄
常任理事	倉片隆	顧問	倉片厚子
常任理事	倉片隆	顧問	芝山茂
常任理事	倉片隆	顧問	遠間ひで子
常任理事	倉片隆	顧問	長澤征次
常任理事	倉片隆	顧問	西納政光
常任理事	倉片隆	顧問	西村修
常任理事	倉片隆	顧問	日高三誠
常任理事	倉片隆	顧問	福島龍郎
常任理事	倉片隆	顧問	藤崎大郎
常任理事	倉片隆	顧問	松崎敏夫
常任理事	倉片隆	顧問	満田将太
常任理事	倉片隆	顧問	渡部俊一

## 編集後記

コロナ禍が始まって3ヶ年あまりになりませんが、自粛も緩和された事で町中には人の出が増えております。先日、鎌倉に1泊で出かけましたが、鶴岡八幡宮や小町通りには人があふれ、バスも混雑シタクシーは長い時間待たされました。これも今まで「これも出来ない・あれもダメ」と緊縮してきた反動なのかなと思えました。日本全国で人が動き出した事でコロナの感染者が増加傾向にあり、心配です。千葉の友人で「3・4人の少人数だから呑み会をやろう」と再三誘っているのですが、頑なにコロナ禍だからと拒否されています。確かに、コロナに感染するのは嫌ですが、3年強も会えずに話もできない状態が続くのは良くないことと感じております。現状の様なコロナ禍でも、マスク・手洗い・消毒をして「自己防御」をしながら、コミュニケーションを図るのも大切な事ではないかと考えております。さて、このマチユリティも116号を迎えることとなりました。いろいろと誌面を考えて作っておりますが、もっと親しみのあるものにするために、読者の皆様から例えば「世の中に言いたいこと」「絵手紙」「お孫様からのお手紙」等を企画して、投稿をいただくことで、これからも長らく皆様に親しまれる誌にしたいと思っております。その際は、たくさんの投稿をお待ちしております。(菊池正美)

MATURITY・第一一六号

二〇二三年一月二〇日発行

発行人 吉川 敏 孝

編集人 岸 伸 和

発行所 公益社団法人 日本産業退職者協会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-17-13

電話 〇三(六二四〇)九三八一

ファックス 〇三(六二四〇)九三八二

ホームページ <https://jarpor.jp/>

### 神宮外苑▶

出射義幸（西東京会）

撮影した頃はやや時期逃しの感じの神宮外苑イチョウ並木でした。お天気も今ひとつはっきりしない生憎の日でしたが、鮮やかな黄色が道路の落ち葉と相俟ってこの場を明るくしてくれていました。



### ◀ 春の名残り

松林純二（広島支部）

広島市近郊の末寺を散歩中、境内の手水鉢にはかなく落花している桜の様子が目にとまり、思わず撮影しました。



### ▲ 残 秋

岩崎迪子（広島支部）

以前、PCDCを楽しむ会と写真を楽しむ会との共催の撮影会で訪れた、旧閑谷学校の洋池での鯉と紅葉が、まるで日本画のようでした。

### ◀ 冬の朝

田中英司（埼玉会）

日向ではほとんど溶けていたが、桜の木の根元の日陰の所に、溶けずに残っていた霜柱を撮った。